

本年度の研究発表大会についてご報告します。

【社会科 3年生】

尾崎隆宏教諭による社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の提案授業が行われました。

スーパーマーケットとその正面にあるコンビニエンスストアの販売の工夫に着目し、比較をすることを通して、販売店の特色と利用する客の関わりについて考えました。同じ時間帯であっても、スーパーマーケット、コンビニエンスストアの両方がにぎわう様子を取り上げ、「スーパーマーケットの方が品数が多く、品の値段も安めであるのに、コンビニエンスストアにたくさんのお客さんが来るのはどうしてか？」について、多様な意見が飛び交いました。



社会科の授業の様子

「短時間で買い物がすむ」「好きな時に買い物できる」「各地にコンビニがあるので家からでも、出かけた帰りなどでも寄ることができる」「郵便やコピーなど、買い物以外でも便利」など、子供たちは、資料の読み取りや話し合い、店長さんのお話からの聞き取りを通して、店側と客側の両方の視点で考えました。

これまで、子供たちはスーパーマーケットについて、調査や見学から、店内の工夫や値段、品揃え、お店の方の努力などを学んで来ました。これらの視点に加え、本学習を通して、販売と人々の生活との関わりには、回転率、立地、時間帯、生活の動線など、多様な背景や心理に考えを巡らせ、学びを深めることができました。

【社会科 3年生】

田中雅子教諭による社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の提案授業が3年2組で行われました。これまで子供たちは、スーパーマーケットの見学を通して学習した中から、売るための工夫を発見してきました。本時はそれらの学習を踏まえて、スーパーマーケットの品物を売ること以外の取組に焦点を当てて学習しました。子供たちはどのスーパーマーケットにも貸し出し用車いすがあることや、ハートフル駐車場があることなどに気付き、誰もが利用しやすい店づくりをしていることを学びました。また、なぜ、リサイクル回収ボックスが設置されているのか考えることを通して、環境を守り、資源を生かす取組をしていることにも気付きました。プラス1（ワン）として教師の方から、スーパーマーケットでは義援金活動やクリーン活動なども行っていることを紹介し、「地いきこうけん」という言葉も学習しました。

経験や写真の中から発見したり、映像を通してスーパーマーケットの店長さんの話を聞いたりして興味深く課題を追究する子供たちの姿が見られた授業でした。



社会科の授業の様子

分科会では、資料の取捨選択や効果的なプラス1（ワン）の設定について話し合われました。特にプラス1（ワン）は、「～なのに、～なのはどうしてか」という課題を設定することで、子供たちの思考が深まるのではないかと、という意見が出されました。

これからも、子供たちの生活や経験と結び付けて考えたり、発見したりしながら、多面的なものの見方・考え方を育てる授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。